

建設業就労者と技術職員に関して！

■ 建設業就労者の現状に関して

建設業の就労者数は、平成9年に685万人とピークに達してから、平成25年には499万人となり、ピーク時の27%も減少しました。

| 年齢 | 就労者数 | 比率 |
|--------|-------|---------|
| 15～19歳 | 4万人 | (0.8%) |
| 20～24歳 | 17万人 | (3.4%) |
| 25～29歳 | 30万人 | (6.0%) |
| 30～34歳 | 44万人 | (8.8%) |
| 35～39歳 | 62万人 | (12.4%) |
| 40～45歳 | 66万人 | (13.2%) |
| 46～49歳 | 53万人 | (10.6%) |
| 50～54歳 | 52万人 | (10.4%) |
| 55～59歳 | 55万人 | (11.0%) |
| 60～64歳 | 63万人 | (12.6%) |
| 65歳以上 | 53万人 | (10.6%) |
| 合計 | 499万人 | (100%) |

499万人の内訳ですが左表の内訳となります。60歳以上が116万人(23.2%)を占めています。このまま10年進むと60歳以上のほとんどが引退することになるとすると、29歳未満が51万人ですから、10年の間に同様の人数しか就労しなければ65万人減少してしまいます。

このために業界を上げ若手の就労者を増やさなければならぬために国土交通省も一手段として若年技術者及び技能労働者に関する経審の改正に至ったのです。

※ 出所：総務省「労働力調査」

■ 若年の技術者及び技能労働者の育成及び確保の状況の影響

- 1) 若年技術職員の継続的な育成及び確保の状況
 - ・技術者のうち若年技術者(35歳未満の技術者)の割合により加点
技術職員の若年技術者の割合が15%以上であれば、W点において1点の加点
- 2) 新規若年技術職員の育成及び確保の状況
 - ・若年技術者のうち新規若年技術者(審査対象年に新規に技術者となった若年技術者)の割合が1%以上であれば1点加点

上記の2項目に関してその他の審査項目(W評点)に他の8つの項目と同様に1点ずつ加点されます。W評点と総合評定値Pに対しての影響は下記のとおりです。

1点加点したとき W評点 → 9点～10点のアップ

P評点 → 1点～2点のアップ

2点加点したとき W評点 → 19点アップ

P評点 → 2点～3点のアップ

(計算中に小数点が発生するために各評点で1点の差異がでます)

■ 経審博士12の販売に関して

平成27年4月改正対応の経審博士シリーズは下記の通り販売を予定します。

① 経審博士12 (2月12日より発売中)

経審博士11を受け継ぐ経審シミュレーションソフトです。

② 経審博士12+Form (2月下旬発売予定)

経審博士12のシミュレーション機能と変更届申請、経営規模等評価申請、経営状況分申請、CIC分析パック対応の各申請書類を作成することができます。

※ 経審博士12+Formを2月中にお買い上げの方には、一端、経審博士12を納品し、経審博士12+Form発表後、改めて納品致します。データはそのまま継承されます。

■ 経審博士12に関して

既に販売している経審博士12の前シリーズと違いに関しては経審博士シリーズのサポート用ホームページの「経審博士サポート情報」に掲載しています。

経審博士12シリーズ

■ 最新バージョン

2015/2/12 経審博士12 Ver12.000 発売中
2015/2/下旬 経審博士12+Form Ver12.100 予定

■ 平成27年4月の改正内容 ■ 経審博士12の新しい機能

・「経審博士12の新しい機能」に掲載しています